

4月18日（月曜日）

おはようございます。

今日は福の神コースのお話をしたいと思います。福の神コースというのは、自利利他の実践のことですが、これの具体的ななどともいい例がありましたので、いつか諸君に話そうと思っていました。今日はその話をします。

私は昔担任をしていたことがありまして、その生徒の結婚式に招かれたことがありました。その生徒はよく話しにきてくれていたのですが、そこに20数年ぶりに教え子たちがきており会いました。その中に水原くんという人がいました。今はお母さんの姓を継いで、岸大輔という名前になっておりました。

彼に「今何をしているのかい」と聞いたら、「僕はいま、保護犬カフェをやっています。」と答えました。「保護犬カフェって何？」と聞いたら少しそれについて話してくれました。彼は大学を出た後ペットショップに勤めたそうです。ペットショップについて私はまったく知りませんでした。ショップで最後まで売れ残ったペットはどうするかというと、保健所につれていくのだそうです。彼はそれにすごく抵抗感があってなんとかできないものかといういろいろ考えた。しかし単なる店員ではどうすることもできない。政治家の力を借りようと思ってもうまくいかない。それで悩みに悩んで彼は、そのペットショップを辞めて「保護犬カフェ」を始めたのです。その仕事とは、保健所に行って、これから殺処分される予定の犬をもらってきて、カフェを開いて、動物好きの人に来てもらい、もしそれらの犬のなかのどれかを気に入ってもらったら里親になってもらい、家に持って帰ってもらうようするということだった。

しかし始めたころは、ペットは保健所からただでもらってくるとか、ペットショップに勤めていたころ、していたことからみても偽善だとか、徹底的にネットに書かれてノイローゼになりそうだった。だけれども、応援してくれる人もたくさんあったので頑張って四年目になるそうで、現在全国で16店舗も経営しているのです。

だいたい保健所に連れていかれる犬というのは、目がみえなくなっているとか、心臓が悪くなっている犬とかが多いという。自分で飼っていたペットが病気になっても最後まで面倒みてあげればいいものを、保健所に預けてしまうというのはひどい話です。しかし保護犬カフェで、もらって帰る人たちは、そういった病気を持っている犬を動物病院に連れて行って、目を手術してあげたり心臓を手術してあげたりするのだそうです。それでも半年くらいで死ぬこともあるらしい。でも半年で死んでももらった人が、いいことをさせてもらったとお礼を言いに来てくれるという。

彼はとてもいいことをしているなど思いましたので応援をしたいと考えています。今度5月の連休明けに、東京の表参道に社運をかけて新しい店を出

そうとしています。きつとうまくいくと思います。

今彼は東京に住んでいますが、鶴橋にもお店があるので、この前夫婦で黙って行ったのです。どんなことやっているのかなあとと思ってね。お店は満員でしたから、これは中を見ることはできないと思ったら、若いカップルの方が、もう私たちは十分楽しみましたからと、すぐ席を代わってくれました。私たちがお店に入ってくれたら、お金になるからです。少しでもお金になるようにと気遣っているのです。犬の中には虐待を受けたものもいて、ずっと変な鳴き声を出していました。さすってあげればおとなしくなったりするのです。

そこに、ほんとに偶然でしたが岸くんが入ってきたのです。彼には内緒でお店を見にきて内緒で帰るつもりでしたから、私も大変びっくりしました。「先生！きて下さったのですか」と大変喜んでくれました。それで一緒に写真を撮りました。彼は、こういうお店はボランティアでは無理だと言いました。一匹や二匹は預かることはできてもたくさんの犬をしかも継続的に預かることはできないとね。それは無理だと私も思います。そのためにはこのお店の採算がとれないといけないのです。採算がとれないと継続できない。つまりボランティアのような善人の道では不可能だということなのです。

福の神のコースは、自分を高めて人のお役に立つと言うのだけれど、やはり自利もなくてはならないのです。つまり自分が食べていけなくてはやっていけないから。いま彼は食べていけるのですが、それは彼の志が高いのでいろいろな人が応援してくれているからです。ペットとして連れて帰ってくれたひとはそれでお店に来なくなるかというところではない。何遍でもきてくれるのだそうです。その理由はこのお店がつぶれてほしくないからです。彼は用事で先に東京に帰っていきました。私たちはしばらく遊んだあと、帰りに飲み物代を支払おうとすると、オーナーから決してお金をもらってはならないと言われていと店員さんが言う。私はおごってもらうわけにはいかないと言ってお金を払って帰りました。

自利利他というのはこういうことなのです。継続的に自利利他を行うためには、自利も必要なのですが、そのためには多くの人に応援してもらうことが必要だ。多くのひとに応援してもらうことで初めて継続できるのです。全国17店舗で保健所につれていかれ処分される犬たちが、これから何千匹何万匹と救われるだろうと思うと、とてもいいことだと思います。しかもそれでお店も採算がとれるし。しかし彼は儲けようと思ってやっているわけではない。彼の志は、なんとか殺されてしまうペットたちを助けようということなのです。自利利他というのは、自分のためになることが、そのまま人のためにもなるということですが、彼の行いはまさにその通りのことを行っています。ただし、その自利利他の行いには、応援してくれる人がなければなかなか難しいということなのです。

彼の話は、自利利他の福の神コースの例としてとてもいい例だなと思いついて、いつか諸君に話しをしようと思っていました。自分を高めていくことによって多くの人のお役に立とうという高い志を持っていると、放っておいても、みなが応援してくれる、こういうことこそが、自利利他のありようかなと思いましたので今日紹介させてもらいました。

今日の話はこれで終わります。

学校長